

項目	内容
名称	ターミナリア・ベリリカ、ベレリックミロ balan、セイタカミロ balan [英]Terminalia bellirica、belleric myrobalan [学名]Terminalia bellirica (Gaertn.) Roxb.
概要	ターミナリア・ベリリカは、インド、マレーシア、フィリピンを原産とするシクンシ科の常緑高木である。柔毛を有する茶色の果実がつく。
法規・制度	■食薬区分 ・ターミナリア・ベリリカ (Terminalia bellirica) 完熟果実：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。 ・セイタカミロ balan 全草：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・リグナン (アノリグナンB、テルミリグナン、タンニリグナン、ベレルコシド)、トリテルペンサポニン (ベレリカシドA,B)、トリテルペン (ベレリカゲンニン A,B、アジコゲニン、ベレリン酸、トメントシン酸) などを含む (101)。 ・果実には、タンニン (20~40%)、アントラキノンを含む (101)。
分析法	-

有効性

ヒトでの評価	循環器・呼吸器 RCT ・健康な男女34名 (平均22.1±2.0歳、日本) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、ターミナリア・ベリリカ抽出物200 mg (没食子酸20.8 mg) もしくは300 mg (没食子酸31.4 mg) を単回摂取させ、直後に高脂肪食を負荷したところ、いずれの群ともに食後6時間までのTG増加量 (IAUC) 減少が認められた (2015358741)。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	RCT ・糖尿病境界域の成人41名 (平均50.0±1.0歳、日本) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、ターミナリア・ベリリカ抽出物含有食品1.0 g (没食子酸20.8 mg) を単回摂取させ、直後に米飯食を負荷したところ、食後120分までの血糖増加量 (IAUC) 減少が認められた (2018178212)。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)
(33) 世界薬用植物百科事典 誠文堂新光社 A.シエヴァリエ
(101) 健康・機能性食品の基原植物事典 中央法規
(2015358741) 薬理と治療. 2015;43(8):1175-80.
(2018178212) 薬理と治療. 2017;45(8):1365-72.